

1. 件名：廃スラッジ回収施設の閉じ込め対策等に係る面談
2. 日時：令和4年7月26日（火）10時00分～11時40分
3. 場所：原子力規制庁 6階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室
新井安全審査官、高木技術参与（テレビ会議システムによる出席）
東京電力ホールディングス株式会社（テレビ会議システムによる出席）
福島第一廃炉推進カンパニー 福島第一原子力発電所 担当3名

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、現在、設計の見直しを進めている廃スラッジ回収施設（以下「本施設」という。）に関し、資料に基づき以下の事項について説明があった。
 - ✓ 本施設の鳥観図及び平面図に対するダスト対策区域
 - ✓ 本施設の負圧方針と概略気流線図
 - ✓ 本施設の換気ダクト配置計画
 - ✓ 本施設の各室内に対する作業内容、作業動線、立入頻度
 - ✓ 異常時の閉じ込め機能
 - ✓ 本施設の送排風機の仕様
 - ✓ 本施設の耐震クラス設定について
 - ✓ 使用施設等の位置、構造及び設備の基準に関する規則等に対する本施設の設計方針
- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、以下のコメントを行った。
 - ✓ 本施設の負圧方針として、本施設内に設定するエリアごとに、負圧レベルを小・中・大の3段階のいずれかに分けるとした考え方と各エリアの負圧レベルの適切性を説明すること。
 - ✓ 室温等の変化による各エリアの圧力バランスへの影響を含めて、それぞれのエリアで許容される温度変化においても負圧を適切に維持できることを説明すること。
 - ✓ 異常時の対応として隔離ダンパにより本施設内の空気を閉じ込める対策についてのみ説明しているが、本施設で想定される異常の内容及び異常時の状態の変化を整理した上で、講ずべき対策（常時負圧を維持するための対策を含む。）の妥当性を説明すること。
 - ✓ 直接、放射性物質を内包しない機器・システムであっても、その機能の喪失時において、関連設備の安全機能を喪失させ、公衆へ放射線影響を与える場合には、その影響度合いに応じて適切な耐震クラスを設定すること。
 - ✓ 本年7月25日に実施した第101回特定原子力施設監視評価検討会（以下「1F検討会」という。）を踏まえて、本施設の耐震クラスについては、保守的かつ合理的な考え方に基づく方法により評価し早期に確定させ、本施設の設計を進めるとともに、中期的リスクの低減目標マップに示す工程を計画的に履行できるよう、設計上課題としている点について詳細なスケジュールを作成し、説明すること。

- ✓ 今後、申請の補正を円滑にとりまとめられるよう、これまでの面談や1F検討会における議論を踏まえて、規制要求事項ごとに、本施設の基本設計方針、詳細設計、根拠として使用した文献等が一連の流れでわかるように資料をとりとめること。

6. その他

資料：廃スラッジ回収施設の設置に関わる補足説明資料